

## 消化器外科

### 1. スタッフ

科長（兼）教授 土岐 祐一郎

その他、教授 8 名、准教授 2 名、講師 1 名、助教 19 名、  
医員 57 名、特任事務職員 1 名、事務補佐員 2 名、外来  
事務補佐員 1 名、病棟事務補佐員 2 名

（兼任を含む。また、教授、助教は特任、寄附講座を  
含む。）

（令和元年 12 月 1 日より）

科長（兼）教授 土岐 祐一郎、江口 英利）

### 2. 診療内容

当科の診療の中心は、消化器悪性腫瘍に対する治療、  
炎症性腸疾患や機能的消化管疾患に対する外科治療、  
肝移植、膵移植を始めとする移植医療など難治性疾患  
に対する治療と研究である。令和元年度には 892 件の  
手術を施行した。

予後の悪い進行癌に対して、生存率の向上のために  
積極的な手術療法を行っているが、一方で化学療法や  
放射線療法と外科手術を組み合わせた集学的治療法の  
開発を行っている。さらに、最近では低侵襲の治療法と  
して鏡視下手術やロボット支援下手術の開発も積極的  
に取り組み、通常の手術と比較して治療成績を低下さ  
せずに手術を行うフィールドを拡大してきた。

当科は担当臓器別に、上部消化管、下部消化管、肝  
胆膵・移植の 3 つの分野で活動している。

上部消化管グループは、悪性腫瘍を中心に食道・胃  
疾患を担当する。食道癌においては、進行度に応じて  
術前・術後の補助療法を含めた食道癌の集学的治療体  
系を開発しており、国内でもトップレベルの症例数を  
誇っている。胃癌では、早期癌だけではなくほぼ全て  
の進行癌に対して腹腔鏡下胃切除を行っており、パイ  
オニアとして全国有数の症例数を誇っている。また、  
平成 30 年 4 月 から da Vinci を用いたロボット支援  
下胃切除が保険収載されたこともあり積極的に推進し、  
関西で 1 位の手術実績を誇っている。消化管間質腫瘍  
（GIST）に対しては、分子標的治療と外科治療を組み  
合わせた先進治療により、予後の大幅な改善を目指し  
ている。また、食道癌術後逆流に対する内視鏡的逆流  
防止弁形成術を世界に先駆けて行うなど、より低侵襲  
の手術の開発に取り組んでいる。さらに、胃食道逆流  
症、アカラシア、病的肥満症など一般病院では取り扱  
わない疾患も含め幅広い領域も同時にカバーしている。  
5-ALA を用いた腹腔播種診断、難治癌に対する癌ワク  
チンをはじめとする免疫療法などの治験も行っている。  
グレリンというホルモンで手術後の体重減少対策にも  
取り組んでいる。

下部消化管グループは、腹腔鏡、内視鏡、TEM などの  
低侵襲手術を早くから取り入れ、現在では大腸癌手術

の大半を占めている。特に単孔式内視鏡手術は、本邦  
で初めて成功して以来これまでに 600 例以上経験し、  
当科での標準術式となっている。また、da Vinci を用  
いた直腸癌のロボット手術も行っている。一方、高度  
進行癌や直腸癌局所再発など一般施設では諦めるよう  
な症例にも手術と共に放射線、化学療法を駆使した集  
学的治療に取り組んでおり、国内でも有数の治療件数  
を誇る。潰瘍性大腸炎、クローン病などの炎症性腸疾  
患については、消化器内科との連携の下、また厚生労  
働省の研究班の構成員として先進的な治療に取り組ん  
でいる。基礎研究の成果の臨床応用もグループの特長  
であり、難治性皮膚瘻に対する自己脂肪組織由来間葉  
系前駆細胞を用いた組織再生医療の臨床応用なども行  
ってきた。

肝胆膵・移植グループは、肝胆膵領域の癌治療と、  
肝・膵移植を実施している。肝胆膵領域癌の治療方針  
の決定は、消化器内科、放射線科とともに三科で検討  
し、種々の癌治療の中で最適な方法を選択している。  
肝細胞癌については、他施設では治療できない門脈・  
下大静脈に進展した症例などにも積極的に取り組み好  
成績を収めている。胆道癌においては、難治癌である  
肝門部胆管癌・胆嚢癌の拡大切除にも積極的に取り組  
んでいる。膵臓癌に対しては、切除のみならず、化学  
放射線療法や新規抗悪性腫瘍剤を用いた多剤併用療法  
にも取り組んでいる。さらに、これら肝胆膵領域癌に  
おける全国規模の厚生労働省研究の主要参加施設で  
もある。また、肝・膵移植については、脳死肝移植・  
脳死膵移植実施施設に認定されている。さらには生体  
部分肝移植術も積極的に施行し、末期肝疾患、先天性  
代謝異常疾患や肝細胞癌などの移植適応疾患に対して、  
日本の臓器移植医療の中核病院の 1 つである。加えて、  
組織移植としての膵島移植の実施認定施設でもある。

次世代内視鏡治療学では、企業と共同開発した新し  
い医療機器を用いて、経管腔の内視鏡手術（NOTES）や  
管腔内手術（単孔式胃内手術）等、新しい低侵襲内視  
鏡治療法やデバイスの開発に積極的に取り組んでいる。

先進癌薬物療法開発学では、ガイドラインに準じた  
形で治療に当たりながらも、新薬の開発治験や抗がん  
剤などの薬剤に関する新しい治療法など多岐にわたる  
臨床研究を押し進めている。昨年は消化器の抗がん剤  
治験として第 I 相試験を導入するなどさらにアクティ  
ビティが上がっている。疾患データサイエンス学では、  
消化器癌の領域で TAS102 をはじめとした核酸アナロ  
グや分子標的薬を用いた臨床試験に関わり、特にアン  
メットニーズが高い疾患を対象にして、各講座との連  
携のもとに基礎及び臨床研究の活動をしている。

また臨床腫瘍免疫学では、がん免疫療法として抗体  
医薬・がんワクチンなどを用いた様々な治験を実施、

特に制御性 T 細胞を標的とした多施設共同医師主導治験では主導的役割を担い、治験参加症例の外来診察に当たっている。

### 3. 診療体制

#### (1) 外来診察スケジュール

外来診察は、月曜日から金曜日の午前・午後すべてに外来枠を保有しており、すべての曜日で初診患者を受け入れている。特殊外来として、肝移植ドナー外来を木曜日午後に開設している。

#### (2) 外来検査スケジュール

外来では上部及び下部内視鏡検査を実施している(表 1)。

#### (3) 病棟体制

病棟は、約 1~3 名の研修医、19 名の病棟主治医及び助教以上の教員による診療体制を敷いている。診断・治療方針は、疾患グループ別カンファと診療科全体のカンファでの討議によって決められている。月曜日から金曜日まで週 5 日間に予定手術枠を保有しているが、夜間休日の緊急手術にも対応できるように、教員層の当直に加え医員は交代勤務制を執っている。

表 1 検査予定表

上部消化管内視鏡	木曜日	内視鏡センター
下部消化管内視鏡	金曜日	内視鏡センター

### 4. 診療実績

#### (1) 外来診療実績

令和元年度の主要疾患外来患者数は、合計 21,040 人(平成 30 年: 20,925 人)に上る。また、特殊外来として多くの移植患者の診療を行っている。外来検査として、内視鏡検査を 1,181 件施行した。

主要疾患外来患者数 ( ) 内は平成 30 年実績

新患者数 912 人 (797 人)

外来患者総数 21,040 人 (20,925 人)

#### (2) 入院診療実績

令和元年度の月平均入院患者数は 3,157 人で病院全体の 11.3%と、昨年より増加している。手術件数は 892 件であった。入院患者の大半は悪性疾患患者で、手術または放射線・化学療法を目的とした入院である。他に、内視鏡治療、ERCP による診断等を目的とした患者も受け入れている。また、生体部分肝移植患者、肝臓提供者、脳死肝移植希望患者の移植前検査、膵移植患者の適応評価のための検査入院、術後定期検査など臓器移植関連の入院も増加している。

#### 1) 疾患分類別手術件数

疾患	全体
上部	318
下部	358
肝胆膵	216
合計	892

#### 2) 主要疾患手術件数

分類	集計
食道癌	115
胃癌	116
大腸癌	207
GIST	23
肝癌	49
転移性肝癌	26
胆道癌	22
膵癌	39
生体肝移植	2
肝移植提供者手術	10
脳死肝移植	4
炎症性腸疾患	68
膵(腎)移植	7
合計	688

### 5. 先進医療実績

#### (1) 先進医療

- ・進行・再発の難治性固形癌患者に対する Oncomine<sup>TM</sup>Target Test システムを用いたがん遺伝子パネル検査に関する研究

### 6. その他

#### (1) 認定施設

外科学会認定施設、消化器外科学会認定施設、消化器病学会認定施設、食道外科専門医認定施設、肝臓学会認定施設、胆道学会指導施設、膵臓学会指導施設、大腸肛門病学会認定施設、肝胆膵高度技能医修練施設、脳死肝移植認定施設、脳死膵移植認定施設、生体部分肝移植実施施設

#### (2) 学会指導医・専門医など(常勤医)

- ・日本外科学会 指導医 19 名、専門医 24 名
- ・日本消化器外科学会 指導医 20 名、専門医 24 名
- ・日本消化器病学会 専門医 13 名
- ・日本肝臓学会 専門医 9 名
- ・日本胆道学会 指導医 3 名
- ・日本膵臓学会 指導医 5 名
- ・日本大腸肛門病学会 指導医 4 名、専門医 7 名
- ・日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 36 名
- ・日本内視鏡外科学会 技術認定医 15 名
- ・日本肝胆膵外科学会 高度技能指導医 3 名  
高度技能認定医 4 名
- ・日本食道学会 食道外科専門医 5 名